

受 検 番 号	氏 名

2 建二

令和 7 年度

2 級建築施工管理技術検定

第二次検定問題

令和 7 年 11 月 9 日(日)

[注 意 事 項]

1. ページ数は、表紙を入れて 21 ページです。
2. 試験時間は、14 時 15 分から 16 時 15 分です。
3. 解答用紙は、別紙（両面）になっています。
4. 試験問題は、5 問題です。
5. 問題 1 から問題 3 は、記述式です。
 解答は、解答用紙の定められた範囲内に、[HB] の黒鉛筆か黒シャープペンシルで記入してください。
6. 問題 4 及び問題 5 は、四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。
 解答の記入に当たっては、次によってください。
 イ. 解答は、選んだ番号を右のマークの塗りつぶし例に
 従って、[HB] の黒鉛筆か黒シャープペンシルで
 塗りつぶしてください。ボールペン、サインペン、色鉛筆等では採点されません。
 ロ. マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
7. 問題 5 は、受検種別に従って次に該当する問題を解答してください。
 イ. 受検種別：建 築の受検者は問題 5－A を解答してください。
 ロ. 受検種別：軀 体の受検者は問題 5－B を解答してください。
 ハ. 受検種別：仕上げの受検者は問題 5－C を解答してください。
8. 解答用紙は、雑書きしたり、汚したり、折り曲げたりしないでください。
9. この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
10. 漢字に付したふりがなは補足であり、異なる読み方の場合があります。
11. この問題用紙は、試験終了時刻まで在席した場合に限り、持ち帰りを認めます。
 途中退席する場合は、持ち帰りできません。

マークの塗りつぶし例 ●

建 築 問 題 5－A

軀 体 問 題 5－B

仕 上 げ 問 題 5－C

問題 1

建築工事の現場を管理していくうえでの工事の遅延防止等に関するあなたの考えについて、今日までの経験を踏まえ、次の1. 及び7ページに示す2. の問いに答えなさい。

- はじめに、あなたの受検種別に係る工種又は作業において1. を解答するに当たり、右の工事計画を確認したうえで、4ページから6ページに示す「イ. 解体」、「ロ. 新築」又は「ハ. 改修」の3つの工事の中からいずれか1つを選び、解答用紙の「選んだ工事」欄の該当する工事の記号を○で囲みなさい。

次に、あなたが選んだイ. からハ. の工事を行ううえで、下の項目Aのa. からc. の中からあなたの受検種別に係る工種又は作業に関連する項目を1つ選び、工事の遅延防止を念頭に置いてそれらの手配や配置、施工をする立場として、項目Bの①から③について、あなたの考えを3つ具体的に記述しなさい。

解答するに当たり、項目Aは、同一の項目を複数回選んでもよいものとし、解答用紙の「選んだ項目」欄の該当する項目の記号を1つ○で囲みなさい。

項目Bは、①工種名又は作業名等は同一の記述でもよいが、②及び③はすべて異なる内容を記述するものとする。

なお、イ. からハ. の3つの工事に共通して必要な仮設に関する内容は、選んだどの工事でも記述してもよいものとする。

ただし、次の内容の記述は不可とする。

- ・選んだ工事を行ううえで必要としない工種及び作業に関する内容
- ・品質が低下するような変更に関する内容
- ・選んだ工事が「イ. 解体」の場合を除き、建築設備工事に関する内容

- 項目A
- 材料（本工事材料、仮設材料）
 - 工事用機械・器具・設備
 - 作業員（交通誘導警備員は除く）

- 項目B
- 工種名又は作業名等
 - 概要の工事を遅延させる可能性があると考える主要な要因と、その要因によって影響を受ける①の具体的な作業内容
 - ②による遅延を防ぐために有効と考える事前に講ずべき対応策

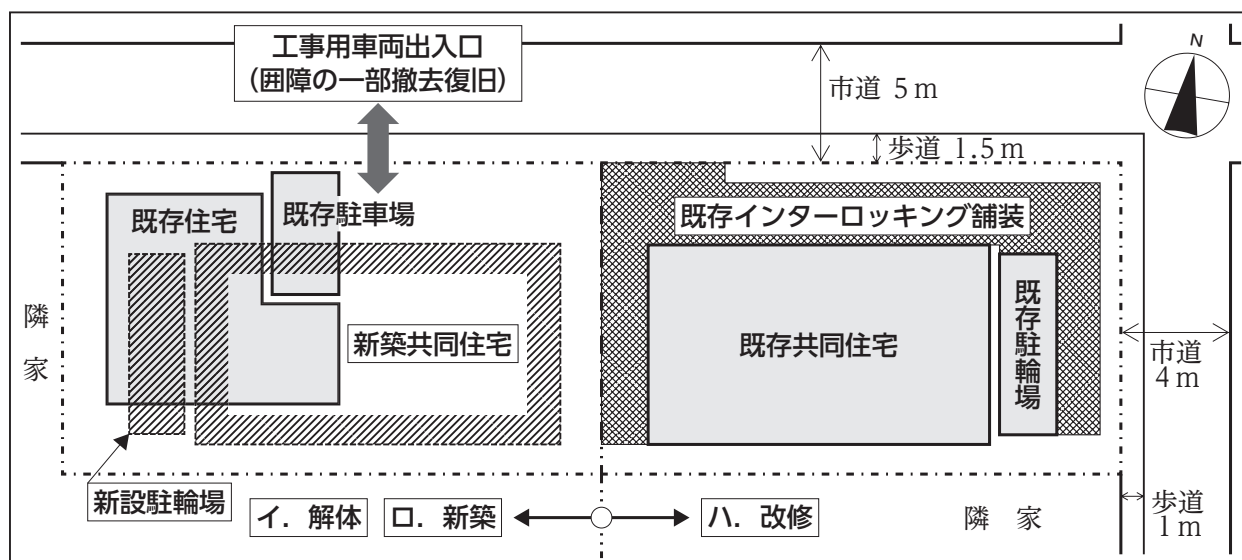
工事計画

下の配置図に示す閑静な住宅街に位置する敷地内において、既存住宅を解体したスペースに既存の共同住宅と同じ平面プランの共同住宅を新築するとともに、既存共同住宅の内外装改修工事を並行して行う計画であり、敷地境界には四周に既存囲障の敷地内側に仮囲いを設けるものとする。

設計図書の不備はなく、工事は下の工程表のとおりとし、作業には一般的な手法を用いることを前提とした無理のない工期を設定している。

なお、工事期間中は、敷地内建物すべてにおいて居住者不在とする。

配置図



工程表

工事	月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
共通 仮囲い等仮設工事	設置					撤去
イ. 既存住宅解体工事						
ロ. 共同住宅新築工事						
敷地内整備工事						
ハ. 既存共同住宅改修工事						

「イ．解体」工事概要

下に示す基礎を含む既存住宅、駐車場及び舗装の解体、並びに囲障の一部を撤去する工事とし、工事に必要な仮設を含むものとする。

なお、基礎解体後の掘削底面は整地まで行う。

また、既存建物にアスベスト含有建材はないものとする。

(表中「○+△+□」は、○下地のうえ△面に□仕上げ等、下地と表面仕上げの関係を示す。)

工事内容		木造戸建て 住宅解体						
主要構造		木造在来軸組工法 地上2階建て						
主要用途		住宅（3LDK）		工期	工程表による			
めん 面	せき 積	敷地面積 685.0 m ²		さいこうたか 最高高さ	6.8 m			
		けんちくめんせき 建築面積 50.0 m ²		かい 階	だか 高	2.8 m		
		の 延べ面積 100.0 m ²		き 基	そ 礎	てつきん 鉄筋コンクリート	ぬのきそ 布基礎	
主な外部仕上げ								
屋 や 根	こうばい 勾配屋根	の 野地板+アスファルトルーフィング ねん 粘土瓦葺き		床	げんかん 玄関、犬走り	たまじやり 玉砂利洗い出し		
					けいりょう 軽量鋼製	しちゅう 支柱、手すり共		
外 が 壁	がい 外	へき 壁	した 下地板+アスファルトフェルト あみ +ラス網+モルタル		建具他	げんかん 玄関扉	もくせい 木製片開き扉	
						まど 窓	せい アルミ製サッシ、複層ガラス共	
		たちあがり 立上り腰壁	モルタル	その他	た 屋根、外壁及び床下断熱材			
主な内部仕上げ（天井高さ2.4m）								
床	よう 洋	しつ 室	壁		天井	みず 水回り	もくした 木下地+シーシングせっこうボード	
						わ 和	しつ 室	もくした 木下地+せっこうボード
						みず 水回り	もくせい 木製扉	もくせい 木製枠共
						げんかん 玄関	たまじやり 玉砂利洗い出し	とぶすま 戸襖、押入部：襖一間
壁	ようしつ 洋室、和室		建具他		みず 水回り	システムバス、洗面化粧台		
						キッチン流し台、コンロ台		
主な敷地内仕様								
駐車場		コンクリート舗装 1台		囲障他	コンクリート腰壁+アクリルリシン			
構内舗装		アプローチ部分 飛び石敷き			上部アルミ製化粧フェンス			
		その他未舗装			アルミ製門扉 中木、低木混栽			
				敷地境界	化粧ブロック積み（既存のまま）			

「□. 新築」工事概要

下に示す共同住宅の新築工事及び敷地内整備工事とし、工事に必要な仮設を含むものとする。

なお、敷地内の整備工事において、道路境界囲障の復旧及び既存コンクリート腰壁面の外装薄塗材E（アクリルシン）吹替え作業を合わせて行う。

（表中「○+△+□」は、○下地のうえ△面に□仕上げ等、下地と表面仕上げの関係を示す。）

工事内容		けいりょうてつこうぞうきょうどうじゅうたくしんくち 軽 量 鉄骨構造 共 同 住 宅新築				
主要構造		けいりょうてつこうぞう　　ち　じょう　　かい　だ 軽 量 鉄骨構造　地　上　2階建て		ね　ぎりふか 根切深さ		
主要用途		しゅうよう　と 共同住宅　6世帯用（1LDK）		じ　　業 地　　業		
工　　期		こうていひょう 工程表による		き　　そ 基　　礎		
めん　　せき 面　　積		しき　ち　めんせき 敷地面積　685.0 m ² けんちくめんせき 建築面積　120.0 m ² の　めんせき の延べ面積　240.0 m ²		コンクリート		
				かた　　わく 型　　枠		
さいこうたか 最高高さ		6.9 m		てつきん　てつこう 鉄筋，鉄骨		
かい　だか 階　　高		2.9 m		たい　か　ひ　ふく 耐火被覆		
おも　　がい　ぶ　し　あ 主な外部仕上げ						
や　ね 屋　根	こうばい　や　ね 勾配屋根	の　　じ　いた 野地板＋アスファルトルーフィング ＋ガルバリウム鋼板葺き		ゆか 床	そと　ろう　か 外　廊　下 てつこうかいだんふみづら 鉄骨階段踏面	
がい 外　壁	がい　　へき 外　　壁	ようぎょうけい 窯業系サイディングパネル フッ素樹脂塗装品		たてぐ　ほか 建具他	げん　かん　とびら 玄　関　扉	
	たちあが　こしかべ 立上り腰壁	こうはん　ぶ コンクリート打放し ＋アクリルシリコン樹脂クリア塗装 てん　ば　みずきりかなものとも 天端水切金物共			けい　しょう　　ば　　こうせい　とびら 化粧シート張り鋼製扉	
					まど 窓	
ゆか 床	バルコニー	もうちはな モルタル下地＋ウレタン系塗膜防水			げん　かん　とびら 玄　関　扉	けい　しょう　　ば　　こうせい　とびら 化粧シート張り鋼製扉
おも　　ない　ぶ　し　あ 主な内部仕上げ（天井高さ2.4m）						
ゆか 床	きょ　　しつ 居　　室	こうせい　おおびき　　もくせい　ゆか 鋼製大引＋木製床パネル ＋パーティクルボード＋フローリングボード		まじきり 間仕切	こ　　ざかい　かべ 戸　境　壁	
	みず　まわ　り 水　回　り	こうせい　おおびき　　もくせい　ゆか 鋼製大引＋木製床パネル ＋パーティクルボード＋クッションフロア		てんじょう 天井	きょ　　しつ 居　　室	
	げん　かん 玄　関	モルタル下地＋ビニル床シート		きょ　　しつ 居　　室	けいりょうてつこうした　じ 軽 量 鉄骨下地＋せっこうボード ＋ビニルクロス	
かべ 壁	きょ　　しつ 居　　室	けいりょうてつこうした　じ 軽 量 鉄骨下地＋せっこうボード ＋ビニルクロス		たてぐ　ほか 建具他	けい　しょう　　ば　　もくせい　とびら　　わく　とも 化粧シート張り木製扉　　枠共 スライディング木製引戸　　枠共 ウォークインクローゼット含む各種収納	
	みず　まわ　り 水　回　り	けいりょうてつこうした　じ 軽 量 鉄骨下地＋シーリングせっこうボード ＋ビニルクロス			きょ　　しつ 居　　室	けい　しょう　　ば　　もくせい　とびら　　わく　とも 化粧シート張り木製扉　　枠共 スライディング木製引戸　　枠共 ウォークインクローゼット含む各種収納
おも　　しき　ち　ない　し　ょう 主な敷地内仕様						
ちゅう　りん　じょう 駐　輪　場		コンクリート舗装　12台 既製品屋根共		い　しょう　ほか 囲障他	こ　　し　か　べ コンクリート腰壁＋アクリルリシン じょう　ぶ 上 部アルミ製化粧フェンス アルミ製門扉　中木，低木混栽	
こう　ない　ほ　そう 構内舗装		インターロッキング舗装 （既存共同住宅周りと同程度）			どう　ろ　きょうかい 道路境界	けい　しょう　　づ　　き 化粧ブロック積み（既存のまま）

「ハ. 改修」工事概要

下に示す既存共同住宅の改修工事とし、工事に必要な仮設を含むものとする。

なお、外部足場設置等により傷んだ部分の既存インターロッキング舗装の補修を合わせて行う。

また、既存建物にアスベスト含有建材はないものとする。

(表中「○+△+□」は、○下地のうえ△面に□仕上げ等、下地と表面仕上げの関係を示す。)

工事内容		軽 量 鉄 骨 構 造 共 同 住 宅 改 修				
主要構造		軽 量 鉄 骨 構 造 地 上 2 階 建 て		めん 面	せき 積	しき ち めんせき 敷地面積 685.0 m ²
主要用途		きようどうじゆうたく せたいよう 共同住宅 6世帯用（1LDK）				けんちくめんせき 建築面積 120.0 m ²
工 期		こうていひよう 工程表による				の めんせき 延べ面積 240.0 m ²
さいこうたか 最高高さ		6.9 m		かい 階	だか 高	2.9 m
おも がい ぶ し あ かいしゅう 主な外部仕上げ改修						
屋や 根ね	こうばい や ね 勾配屋根	き ぞん ばん ぶ 既存スレート板葺きのうえ ガルバリウム鋼板カバー工法		床ゆか	バルコニー	けいと まくぼうすい か ウレタンゴム系塗膜防水やり替え モルタル下地劣化部補修共
	外がい 壁へき	サイディングパネル面 既存塗膜除去のうえ フッ素樹脂塗料塗替え			そと ろう か 外 廊 下 てっこつかいだんふみづら 鉄骨階段路面	き ぞんぬりゆかめん 既存塗床面 ぼうかつせいこうせいじゅ し ぬりゆか ぬ かさ 防滑性合成樹脂塗床塗り重ね
		がい へき 外 壁	コンクリート打放し面 既存塗膜除去のうえ アクリルシリコン樹脂クリア塗料塗替え		けんぐほか 建具他	げんかんとびら まど 玄関扉，窓 ほんたいせいそう 本体清掃のうえシーリング打替え
おも ない ぶ し あ かいしゅう てんじょうたか 主な内部仕上げ改修（天井高さ2.4m）						
床ゆか	きょ しつ 居 室	き ぞん めん 既存フローリングボード面 けん ま 研磨のうえワックス掛け		壁かべ	みず まわ り 水 回 り	した じ 下地せっこうボード面補修のうえ ビニルクロス張替え
	みず まわ り 水 回 り	した じ もくせいゆか めん ほしゅう 下地木製床パネル面補修のうえ クッションフロア張替え		天井てんじょう	きょしつ みずまわ 居室，水回り	した じ 下地せっこうボード面補修のうえ ビニルクロス張替え
	げん かん 玄 関	した じ めん ほしゅう 下地モルタル面補修のうえ ゆか かり か ビニル床シート張替え		けんぐほか 建具他	きょ しつ 居 室	き ぞんもくせいとびらおよ き ぞんもくせいひき ど 既存木製扉 及び既存木製引戸 すべて取替え き ぞんもくせいたて ぐ わくめん ほ しゅう 既存木製建具枠面補修のうえ ウレタン樹脂ワニス塗替え
壁かべ	きょ しつ 居 室	した じ 下地せっこうボード面補修のうえ ビニルクロス張替え れつ か ぶ ともはり か ボード劣化部はせっこうボード共張替え				みず まわ り 水 回 り
おも しきち ない しゅう 主な敷地内仕様						
こうない ほ そう 構内舗装		き ぞん ほ そう ほ しゅう 既存インターロッキング舗装補修				

2. あなたの受検種別及び1. で選んだ工事に係わらず、工期を守るため、あなたが作業工程の短縮に有効と考える合理的な方法や手段と、それらの方法や手段を用いることによって、作業工程の短縮以外に得られる工事への良い影響を2つ具体的に記述しなさい。

ただし、合理的な方法や手段が同一のもの、1. の③と同じ内容及び建築設備工事に関する内容の記述は不可とする。

問題 2

次の建築工事に関する用語の一覧表の中から5つ用語を選び、解答用紙の用語の記号欄の記号にマークしたうえで、選んだ用語欄に用語（太字で示す部分のみでも可）を記入し、その用語の説明と施工上留意すべきことを具体的に記述しなさい。

ただし、使用資機材に不良品はないものとする。

また、使用資機材の選定に関する記述、並びに記号c及び記号m以外の用語についての作業上の安全に関する記述は不可とする。

用語の一覧表

用語の記号	用語
a	型枠の剥離剤
b	金属製建具のかぶせ工法
c	クローラークレーン
d	軽量鉄骨壁下地のスペーサー
e	コンクリートのレイタンス
f	シーリング工事のバックアップ材
g	せっこうボード張りにおけるコーナービード
h	タイルカーペット
i	鉄筋の機械式継手
j	床付け
k	被覆アーク溶接
ℓ	木構造のアンカーボルト
m	床開口部の養生
n	ルーフドレン

問題 3

鉄骨構造 3 階建ての事務所ビル新築工事について、工事概要を確認のうえ、右の工程表及び出来高表に関し、次の 1. から 4. の問いに答えなさい。

工程表は、予定出来高曲線を破線で表示している。

また、出来高表は 4 月末時点のものを示しており、合計欄の月別実績出来高及び実績出来高累計の金額は記載していない。

なお、各作業は一般的な手順に従って施工されるものとする。

[工事概要]

用途：事務所

構造、規模：鉄骨構造 地上 3 階建て、延べ面積 300.0 m²

耐火被覆は耐火材巻付け工法

外部仕上げ：屋上防水は塩化ビニル樹脂系断熱シート防水

外壁は押出成形セメント板、モザイクタイル張り

外部階段は合成樹脂調合ペイント塗り

外部建具はアルミ製建具、複層ガラス

内部仕上げ：床は OA フロア、タイルカーペット仕上げ

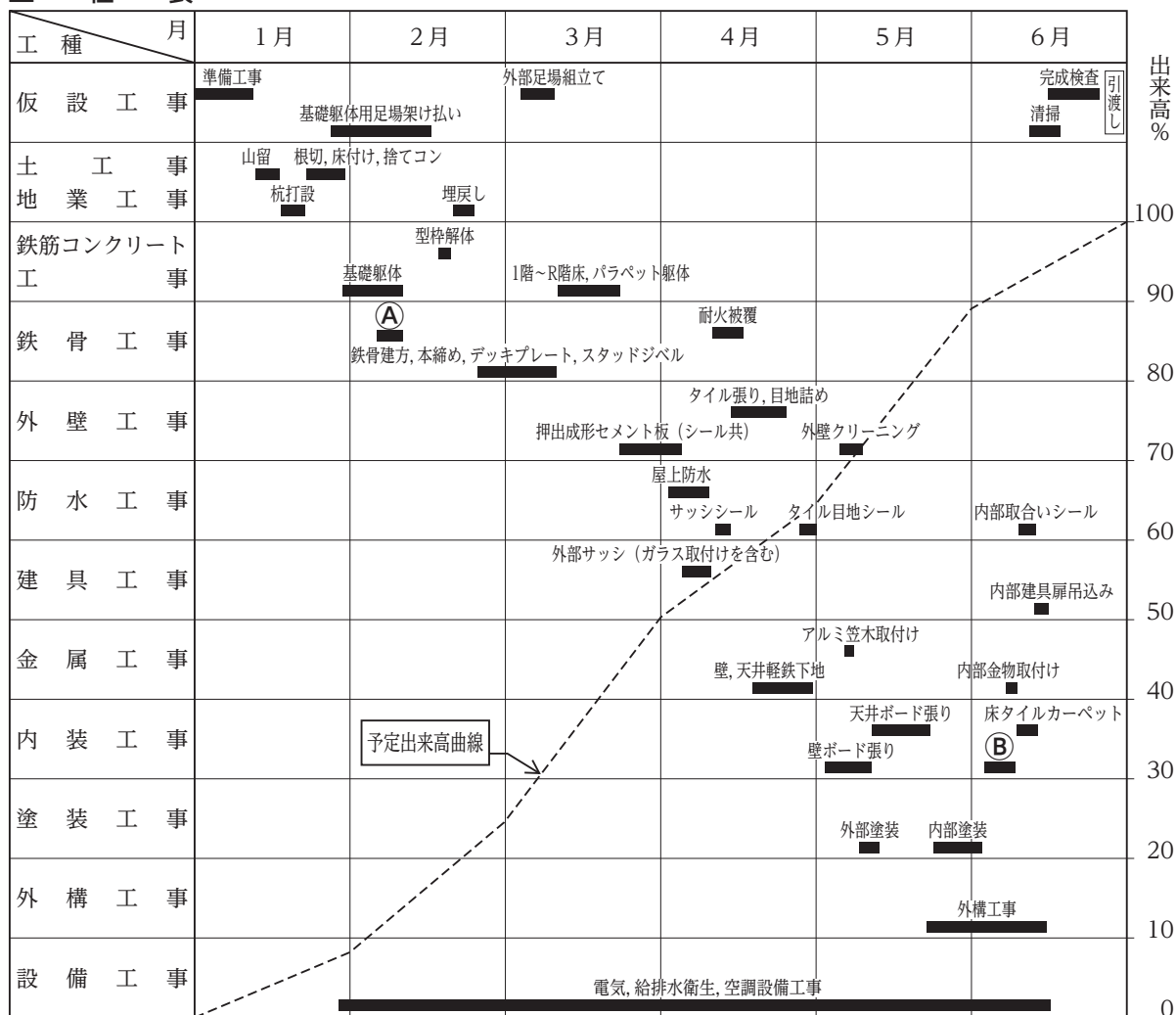
壁は軽量鉄骨下地せっこうボード張り、塗装仕上げ

天井は軽量鉄骨下地せっこうボード張り、ロックウール化粧吸音板仕上げ

その他：内部建具扉はすべて工場仕上げ品

- 工程表の鉄骨工事の(A)、内装工事の(B)に該当する作業名を記入しなさい。
- 工程表には外部足場解体と内部建具枠取付けの工程を記載していない。
外部足場解体の最も早い着手時期及び内部建具枠取付けの最も遅い完了時期を、月と旬日で定めて記入しなさい。ただし、解答の旬日は、上旬、中旬、下旬とする。
- 出来高表から、2 月末の実績出来高累計金額と予定出来高累計金額との差額を記入しなさい。
- 出来高表から、3 月末の実績出来高累計金額の工事金額の合計に対する比率をパーセントで記入しなさい。

こう てい ひょう
工 程 表



で き だか ひょう
出 来 高 表

単位 万円

工 種	工 事 金 額	予 定 出 来 高	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
仮 設 工 事	800	予 定 出 来 高 実 績 出 来 高	80 80	80 80	320 320	30 30	240	50
土 工 事 地 業 工 事	700	予 定 出 来 高 実 績 出 来 高	460 460	240 240				
鉄筋コンクリート 工 事	1,100	予 定 出 来 高 実 績 出 来 高	60 60	610 610	430 430			
鉄 骨 工 事	1,200	予 定 出 来 高 実 績 出 来 高		360 300	780 840	60 60		
外 壁 工 事	1,100	予 定 出 来 高 実 績 出 来 高			590 420	400 570	110	
防 水 工 事	120	予 定 出 来 高 実 績 出 来 高				100 100		20
建 具 工 事	550	予 定 出 来 高 実 績 出 来 高				410 410	110	30
金 属 工 事	200	予 定 出 来 高 実 績 出 来 高				160 160	20	20
内 装 工 事	850	予 定 出 来 高 実 績 出 来 高					550	300
塗 装 工 事	100	予 定 出 来 高 実 績 出 来 高					30	70
外 構 工 事	280	予 定 出 来 高 実 績 出 来 高					140	140
設 備 工 事	1,500	予 定 出 来 高 実 績 出 来 高	80 80	80 80	80 80	70 70	900	290
合 計	8,500	月別予定出来高 月別実績出来高 実績出来高累計	680	1,370	2,200	1,230	2,100	920

問題 4

次の 1. から 3. の各法文において、 に当てはまる正しい語句を、下の該当する枠内から 1 つ選びなさい。

1. 建設業法（請負契約とみなす場合）

第 24 条 委託その他いかなる名義をもってするかを問わず、 ① を得て建設工事の ② を目的として締結する契約は、建設工事の請負契約とみなして、この法律の規定を適用する。

①	① 承認	② 承諾	③ 賃金	④ 報酬
---	------	------	------	------

②	① 施工	② 完了	③ 完成	④ 竣工
---	------	------	------	------

2. 建築基準法（工事現場の危害の防止）

第 90 条 建築物の建築、修繕、模様替又は除却のための工事の ③ は、当該工事の施工に伴う地盤の ④、建築物又は工事用の工作物の倒壊等による危害を防止するために必要な措置を講じなければならない。

2 （略）

3 （略）

③	① 設計者	② 施工者	③ 作業員	④ 請負人
---	-------	-------	-------	-------

④	① 沈下	② 振動	③ 崩落	④ 軟弱化
---	------	------	------	-------

3. 労働安全衛生法 (定義)

第2条 この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

一 労働災害 労働者の ⑤ に係る建設物、設備、原材料、ガス、蒸気、粉じん等により、又は作業行動その他業務に起因して、労働者が負傷し、疾病にかかり、又は死亡することをいう。

二 (略)

三 事業者 事業を行う者で、労働者を ⑥ するものをいう。

三の二 (略)

四 (略)

⑤	① 就 業	② 執 務	③ 職 種	④ 職 場
---	-------	-------	-------	-------

⑥	① 監 督	② 管 理	③ 指 揮	④ 使 用
---	-------	-------	-------	-------

※ 受検種別：建築の受検者は問題5-Aを解答してください。

問題5-A 次の1. から8. の各記述において、 に当てはまる最も適切な語句又は数値を、下の枠内から1つ選びなさい。

1. 軟弱な地盤等において、山留め壁の根入れが浅い場合に、山留め壁背後の土が根切り側へ回り込み、根切り底面がふくれあがる現象を ① という。

① は山留め壁を崩壊させる原因となるため、良好な地盤まで根入れ長さを延ばしたり、根切り底の地盤改良を施したりして対策を行う。

①	① 液状化	② パイピング	③ ヒーピング	④ ボイリング
---	-------	---------	---------	---------

2. 既製コンクリート杭地業のセメントミルク工法において、杭径が300 mm から600 mm の場合は、杭径よりも ② mm 程度大きいオーガーヘッドを使用する。掘削は、安定液を用いて孔壁の崩壊を防止しながら、杭心に合わせて鉛直に行い、予定の支持層に達した後、根固め液及び杭周固定液を注入しながらアースオーガーを引き抜いていき、その後既製コンクリート杭を掘削孔内に建て込む。

②	① 50	② 100	③ 150	④ 200
---	------	-------	-------	-------

3. 鉄筋工事において、コンクリートの中性化や火災等の高温による鉄筋への影響を考えた鉄筋を覆うコンクリートの厚さをかぶり厚さという。

建築基準法施行令では、原則として、柱又は梁にあっては ③ cm 以上、床にあっては2 cm 以上と規定されている。

③	① 3	② 4	③ 5	④ 6
---	-----	-----	-----	-----

4. 木構造の枠組壁工法において、壁枠組は ④ の上で製作し、建て起こして、外周壁から内部間仕切壁の順に組み立てていく。壁枠組の上に頭つなぎを取り付けて、壁全体を固定する。

④	① 基礎	② 土台	③ 根太	④ 床枠組
---	------	------	------	-------

5. コンクリート直均しは、コンクリート打込みのときに、表面の荒均しを行い、粗骨材が表面より沈むまでタンピングをした後、⑤ して平らに敷き均す。コンクリート表面が指で押しても少ししか入らない程度に硬化した時期に木ごてずりを行う。踏板等に乗る、スラブの上に乗ってもほとんど沈まなくなったら、金ごてで表面を仕上げる。

⑤	① 定規ずり	② とんぼ掛け	③ 目ずり	④ ラスコすり
---	--------	---------	-------	---------

6. 外壁 ALC パネル縦張り工法において、骨組みが変形したときにパネルが破損するのを防ぐために、⑥ 構法が多く用いられる。この構法は、パネルの上下それぞれ1か所を梁等と接合するが、接合部が微小回転できるように取り付ける。

⑥	① アンカー	② スウェイ	③ スライド	④ ロッキング
---	--------	--------	--------	---------

7. 金属製屋根折板葺における重ね形折板は、各山ごとにタイトフレームに固定ボルト締めとし、折板の流れ方向の重ね部を緊結するボルトの間隔は、⑦ mm 程度とする。
- 棟の納まりについては、棟包みを設け、タイトフレームに固定ボルト等に取り付ける。折板の水下には、先端部に雨水を止めるために止水面戸を設け、折板及び面戸に穴をあけないようポンチング等で固定する。

⑦	① 400	② 500	③ 600	④ 700
---	-------	-------	-------	-------

8. 内装仕上げの軽量鉄骨天井下地工事において、天井のふところが1.5 m以上3 m以下の場合、吊ボルトと同じ材や鉄筋等を用いて、下地の水平補強を行う。
- 水平補強は、縦横方向に⑧ m 程度の間隔で取り付ける。

⑧	① 0.9	② 1.8	③ 2.7	④ 3.6
---	-------	-------	-------	-------

※ 受検種別：躯体の受検者は問題5－Bを解答してください。

問題5－B 次の1. から4. の各記述において、 に当てはまる最も適切な語句又は数値を、下の該当する枠内から1つ選びなさい。

1. コンクリート工事の打込みにおいて、公称棒径45 mmの棒形振動機を締め固めに用いる場合、コンクリート一層の打込み厚さは、棒形振動機部分の長さである60 cm から80 cm 以下とし、棒形振動機の挿入間隔は ① cm 以下とする。

また、棒形振動機は、コンクリート表面にセメントペーストが浮き上がるまで加振し、加振時間は1か所当たり ② 程度とするのが一般的である。

①	① 30	② 60	③ 90	④ 120
---	------	------	------	-------

②	① 5 秒 から 15 秒	② 15 秒 から 25 秒	③ 25 秒 から 35 秒
	④ 35 秒 から 45 秒		

2. 型枠工事中において、柱型枠の長さは、階高からスラブの厚さとスラブ用せき板や木毛セメント板等があればその厚さを減じた寸法より、下階のスラブコンクリート面の不陸を考慮して ③ 程度短めにしておく。

組立てに際しては、加工した柱型枠の ④ と、鉄筋や鉄骨に出した建込み用の ④ とを桟木等のかいものを利用して合わせる。

③	① 0 mm から 10 mm	② 10 mm から 20 mm	③ 20 mm から 30 mm
	④ 30 mm から 40 mm		

④	① 心 墨	② 逃げ墨	③ 寄 墨	④ 陸 墨
---	-------	-------	-------	-------

3. 鉄骨工事のトルシア形高力ボルトを使用する接合部の組立てにおいて、接合部の材厚の差等により、接合部に ⑤ mm を超える肌すきがある場合には、 ⑥ プレートをを用いて肌すきを埋める。

板厚が厚い場合は、スプライスプレートとの密着性が悪くなることや、ボルト孔がずれた場合に手直しが不可能になることがあるため、加工精度には特に注意を要する。

⑤	① 0.5	② 1.0	③ 1.5	④ 2.0
---	-------	-------	-------	-------

⑥	① エンド	② バンド	③ カバー	④ フィラー
---	-------	-------	-------	--------

4. 鋼構造物の解体工事においては、一般に解体機械で鉄骨の切断を行いながら ⑦ を併用して解体作業を実施する。解体順序は、内外装等を撤去してから、作業中に倒壊しないように一定のスパンごとに解体していくことが多い。

なお、鉄骨の耐火被覆材として、現在は禁止されている ⑧ が使用されていた時期があるため、十分に事前調査を行い、解体前に撤去しておく必要がある。

⑦	① ウォータージェット	② カットソー	③ ガス溶断	④ ワイヤソー
---	-------------	---------	--------	---------

⑧	① 石綿	② ウレタン	③ 岩綿	④ グラスウール
---	------	--------	------	----------

※ 受検種別：仕上げの受検者は問題5－Cを解答してください。

問題5－C 次の1. から4. の各記述において、 に当てはまる最も適切な語句又は数値を、下の該当する枠内から1つ選びなさい。

1. ウレタンゴム系塗膜防水絶縁工法の施工において、通気緩衝シートの張付けに当たっては、継目を ① とし、下地からの浮き、端部の耳はね等が生じないように注意して張り付ける。立ち上がり部は、通気緩衝シートに替えて補強布を用いる。この場合、平場部の通気緩衝シートの端部をシーリング材等で処理したうえ、補強布を通気緩衝シートの上に ② mm程度張り掛けて防水材を塗布する。

①	① 目透し	② 突付け	③ 50 mm 重ね	④ 100 mm 重ね
---	-------	-------	------------	-------------

②	① 30	② 50	③ 70	④ 100
---	------	------	------	-------

2. 外部に面するサッシのガラス工事において、板厚12 mm（3 + A 6 + 3）の複層ガラスをグレイジングガasket構法により取り付ける場合、ガラス溝のかかり代は、 ③ mm以上とする。

また、サッシ固定部の面クリアランスは、 ④ mm以上とする。

③	① 6.5	② 10	③ 15	④ 20
---	-------	------	------	------

④	① 2	② 3	③ 4	④ 5
---	-----	-----	-----	-----

3. 塗装工事において、塗装作業中に塗膜が平らに乾燥せず、ちりめん状や波形模様の凹凸を生じる現象を ⑤ といい、厚塗りによる上乾きの場合等を起こりやすい。
 塗装後に気温が下がることで、塗料の乾燥が遅れたり、空気中の ⑥ により白化（ブラッシング）が起こる。

⑤	① し わ	② だ れ	③ にじみ	④ はじき
---	-------	-------	-------	-------

⑥	① さん 素	② すい 分	③ にさん かたん 素	④ ちつ 素
---	--------	--------	-------------	--------

4. フローリングボード張りにおいて、下張り用床板の上に接着剤を併用してフローリングボードを釘打ちで張り込む場合、下張り用床板は乱に継ぎ、継手部は根太心で突付けとし、 ⑦ mm 程度の間隔で釘打ちとする。

フローリングボードは、所定の接着剤を下張り用床板に塗布し、通りよく敷き並べて押さえ、 ⑧ の付け根から隠し釘止めとする。

⑦	① 150	② 200	③ 250	④ 300
---	-------	-------	-------	-------

⑧	① ほ ぞ	② みぞ 溝じゃくり	③ お 雄ざね	④ め 雌ざね
---	-------	------------	---------	---------

